

2012年3月期第2四半期決算説明会

2011.11.22

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

本日のアジェンダ

1. 2012年3月期第2四半期決算サマリー
常務取締役経理部長 久保田 尚志

2. 足元の状況と高機能材への取組み

代表取締役社長 杉森 一太

＜参考＞主要データ(連結ベース)

2012年3月期第2四半期決算のポイント

➤ 半期としては3年ぶりの経常利益、当期利益を確保

- ① ステンレス一般材の販売数量は国内・輸出ともに低水準で推移
- ② 一方、高機能材部門はエネルギー分野を中心に海外需要が堅調に推移、収益を支える
- ③ 適正な販売価格の維持・形成努力と、コストダウンの各施策が進展したことも増益要因
- ④ 中期経営計画『変革2011』で取り組む高機能材競争力強化等を目的とした設備投資に充当するため公募増資を実施

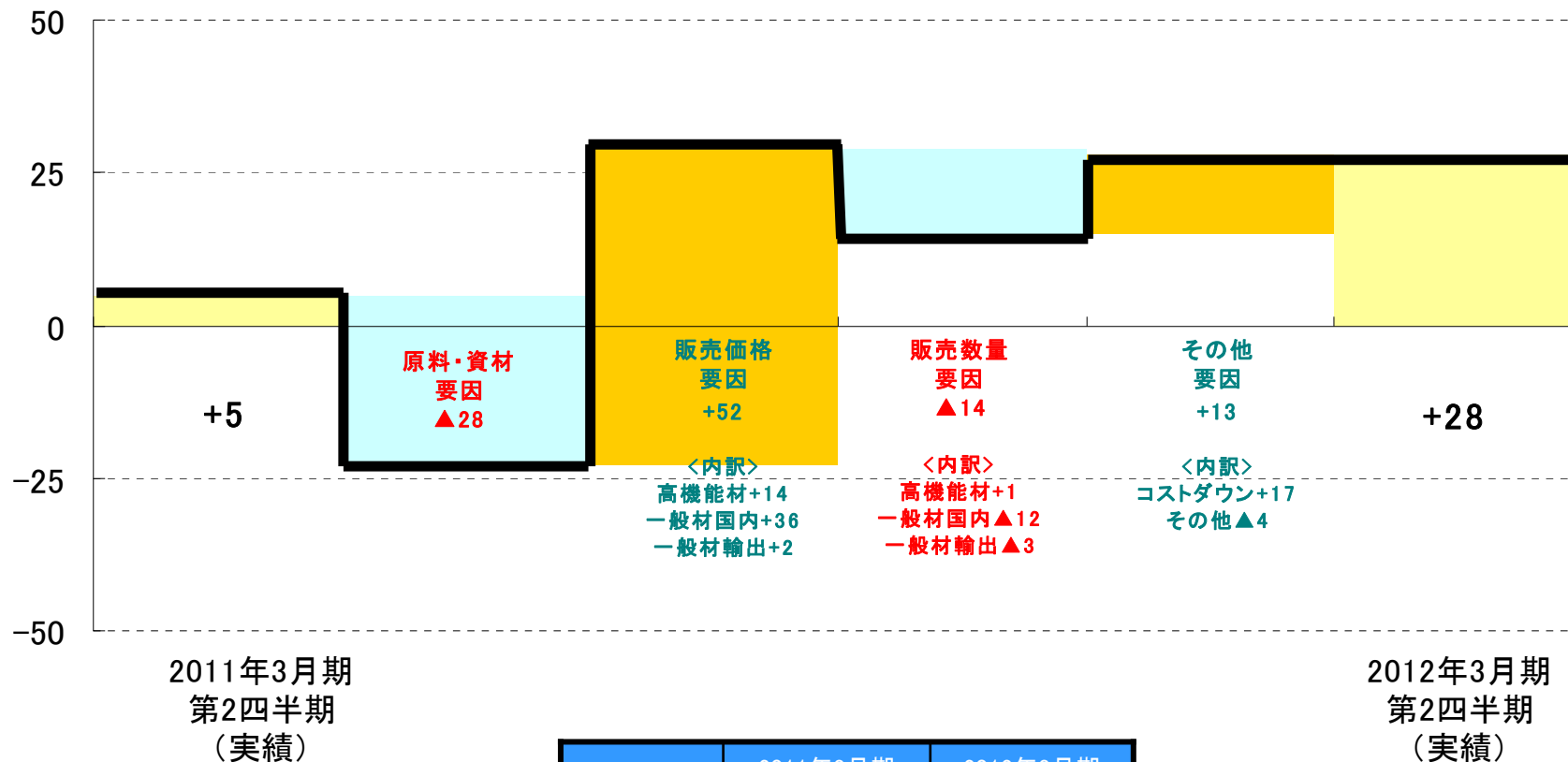
損益計算書 連結 概要

	2011年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	2012年3月期 第2四半期 累計実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	687	692	5	0.7
営業利益	5	28	23	482.9
経常利益	▲ 2	21	23	-
当期純利益	▲ 13	17	30	-
ROA(%)	0.8	3.9		
高機能材部門 売上高比率(%)	31.6	38.0		

(注)ROAは(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資産×2

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格:2011年3月期上期9.90US\$/Lb、2012年3月期上期10.51US\$/Lb。

営業利益変動の要因分析(前年同期比較:億円)



販売量 (千トン)	2011年3月期 第2四半期 累計(実績)	2012年3月期 第2四半期 累計(実績)
一般材	124	98
高機能材	20	22

貸借対照表 連結 概要

	2011年3月 末 (億円)	2011年9月 末 (億円)	前期比増減 (億円)	2011年3月 末 構成比 (%)	2011年9月 末 構成比 (%)
現金・預金	69	88	18	4.7	5.8
売掛債権	237	230	▲ 6	16.2	15.3
たな卸資産	319	353	34	21.8	23.5
その他流動資産	8	4	▲ 4	0.5	0.3
固定資産	831	828	▲ 4	56.8	55.1
【資産合計】	1,463	1,502	39	100.0	100.0
借入金・社債	640	642	2	43.7	42.7
その他負債	497	478	▲ 19	34.0	31.9
【負債計】	1,137	1,120	▲ 17	77.7	74.6
【純資産計】	326	382	55	22.3	25.4
自己資本比率(%)	22.3	25.4			

キャッシュフロー計算書 連結 概要

	2011年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	2012年3月期 第2四半期 累計実績(億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	▲ 32	▲ 7	25
税金等調整前中間(当期)純利益	▲ 2	18	20
減価償却費	29	25	▲ 4
売上債権の増加額(△)又は減少額	▲ 32	6	38
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	▲ 47	▲ 34	13
仕入債務の増加額又は減少額(△)	11	▲ 25	▲ 35
法人税等の支払額	▲ 4	1	5
その他	13	2	▲ 12
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 10	▲ 12	▲ 2
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 13	▲ 14	▲ 2
その他	2	2	▲ 0
フリー・キャッシュフロー	▲ 43	▲ 20	23
財務活動によるキャッシュフロー	39	40	1
長短借入金の増加額又は減少額(△)	42	2	▲ 39
株式発行による調達	0	41	41
その他	▲ 3	▲ 3	▲ 0
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	▲ 4	20	24

公募増資の概要

本ファイナンスの目的

- 高機能材競争力強化、原料関連、環境対応、基盤整備等の設備投資に充当することを予定
- 収益力強化を促進するとともに資本増強による安定的な財務基盤の確立

公募増資による資金調達

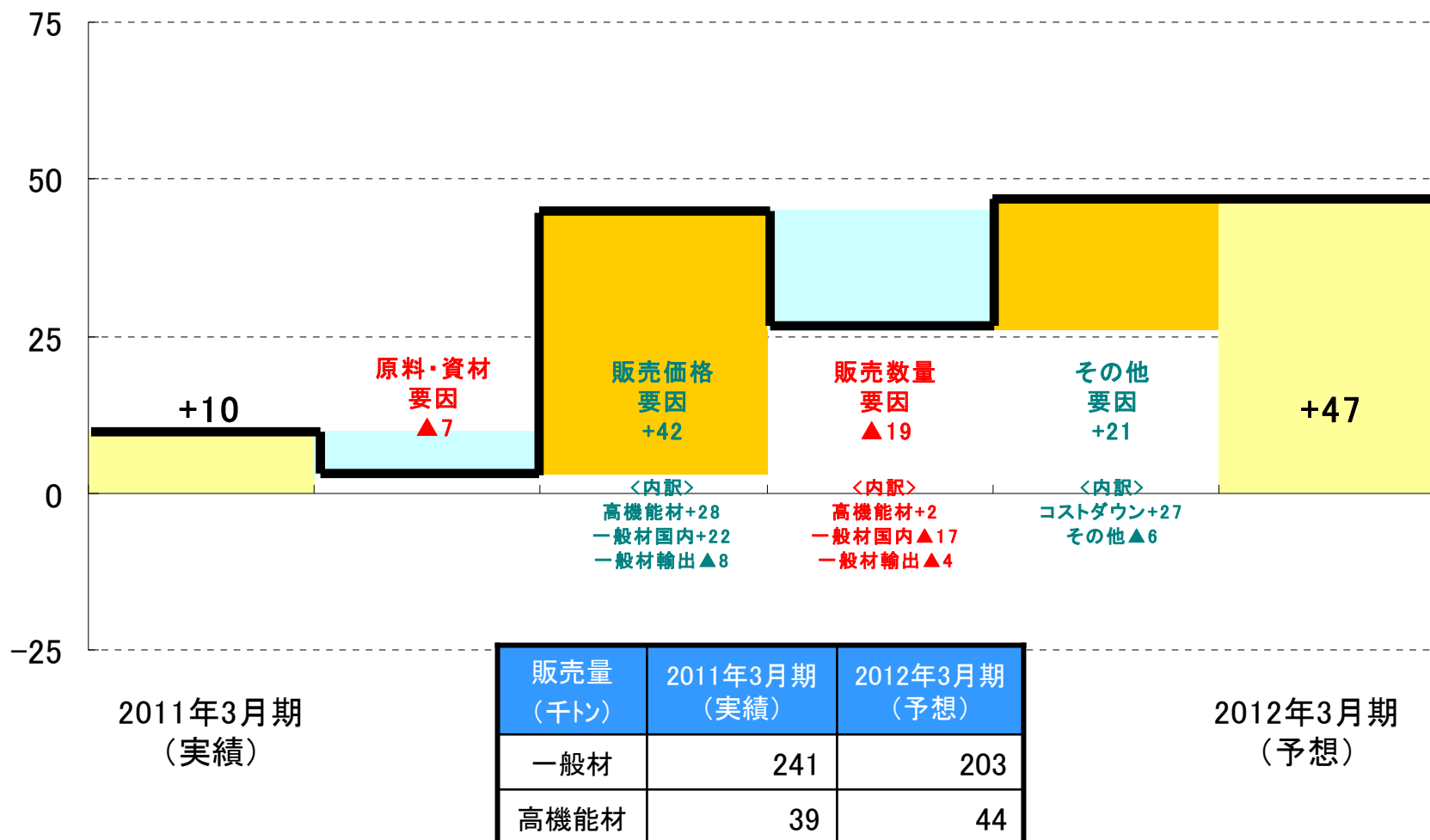
- 発行形態 : 国内公募増資(一般募集及び第三者割当)
- 発行株式数 : 31,000,000 株
 - 一般募集分(平成23年9月13日) 27,000,000 株
 - 第三者割当分(平成23年9月27日) 4,000,000 株
- 増資後発行済株式数 : 154,973,338株
- 払込金額 : 41億円
- 資金使途 : 設備投資

2012年3月期連結業績予想

	2011年3月期	2012年3月期		
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,388	1,380	▲ 8	▲ 0.6
営業利益	10	47	37	354.4
経常利益	▲ 4	30	34	-
当期純利益	▲ 105	26	131	-

(前提)2012年3月期下期ニッケルLME平均価格: 8.50US\$/Lb、為替レート 78.0円。

営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



本日のアジェンダ

1. 2012年3月期第2四半期決算サマリー
常務取締役経理部長 久保田 尚志

2. 足元の状況と高機能材への取組み

代表取締役社長 杉森 一太

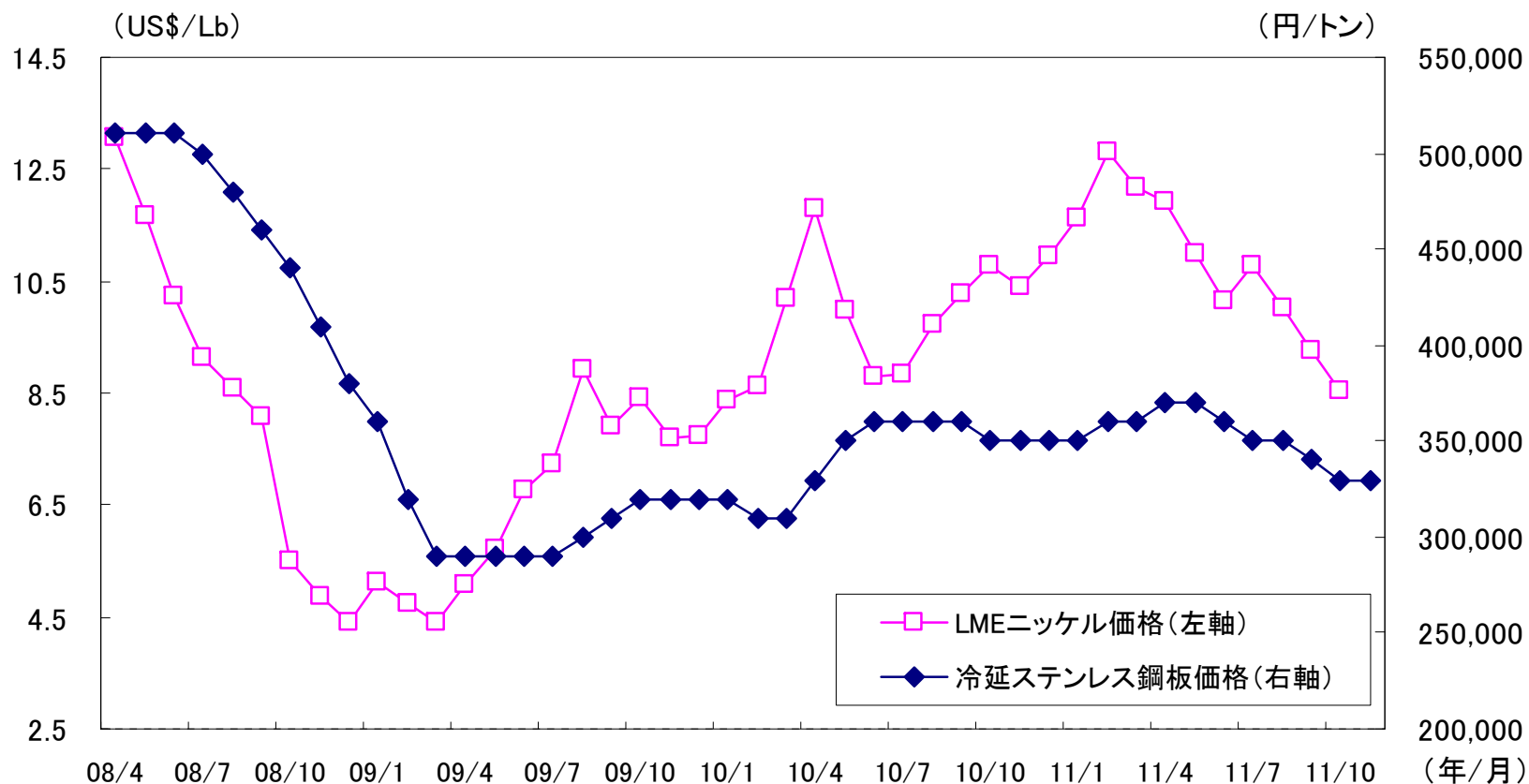
＜参考＞主要データ(連結ベース)

ステンレス一般材の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
今年度上期	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市況は、期初上昇気配であったが、昨年と同様に5月の連休明けのLME下落を受けて一気に冷え込み ✓ 大震災の復旧需要は一部を除いてほとんどみられず、自動車関連以外の需要は低迷 ✓ 輸入材は円高をうけて増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市況全般は国内と同じ動き ✓ ある程度の需要はあるが、円高進行により月を追うごとに商談が難航 ✓ 例年9月頃から出始める欧米向けクリスマス商戦用素材の引合も弱め
今年度下期見通し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 震災復興需要は早くとも年明け以降となり、実需回復はごく緩やかなペースを想定 ✓ 流通、ユーザーともに在庫抑制が予想されるため数量の急増は見込みにくい ✓ 円高とLMEニッケル価格がある程度落ち着くことにより、安定した市場価格を想定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東南アジア企業は欧米向け輸出への依存度が高いため、需要は欧米の金融、景気に大きく影響される ✓ 在庫は積み上がっていないため、実需に対応した需要はでてくるものと予想 ✓ 円相場高止まりの下では数量確保が難しく、成形性などに優れた製品で利益確保できるアイテムを中心とする取引を推進

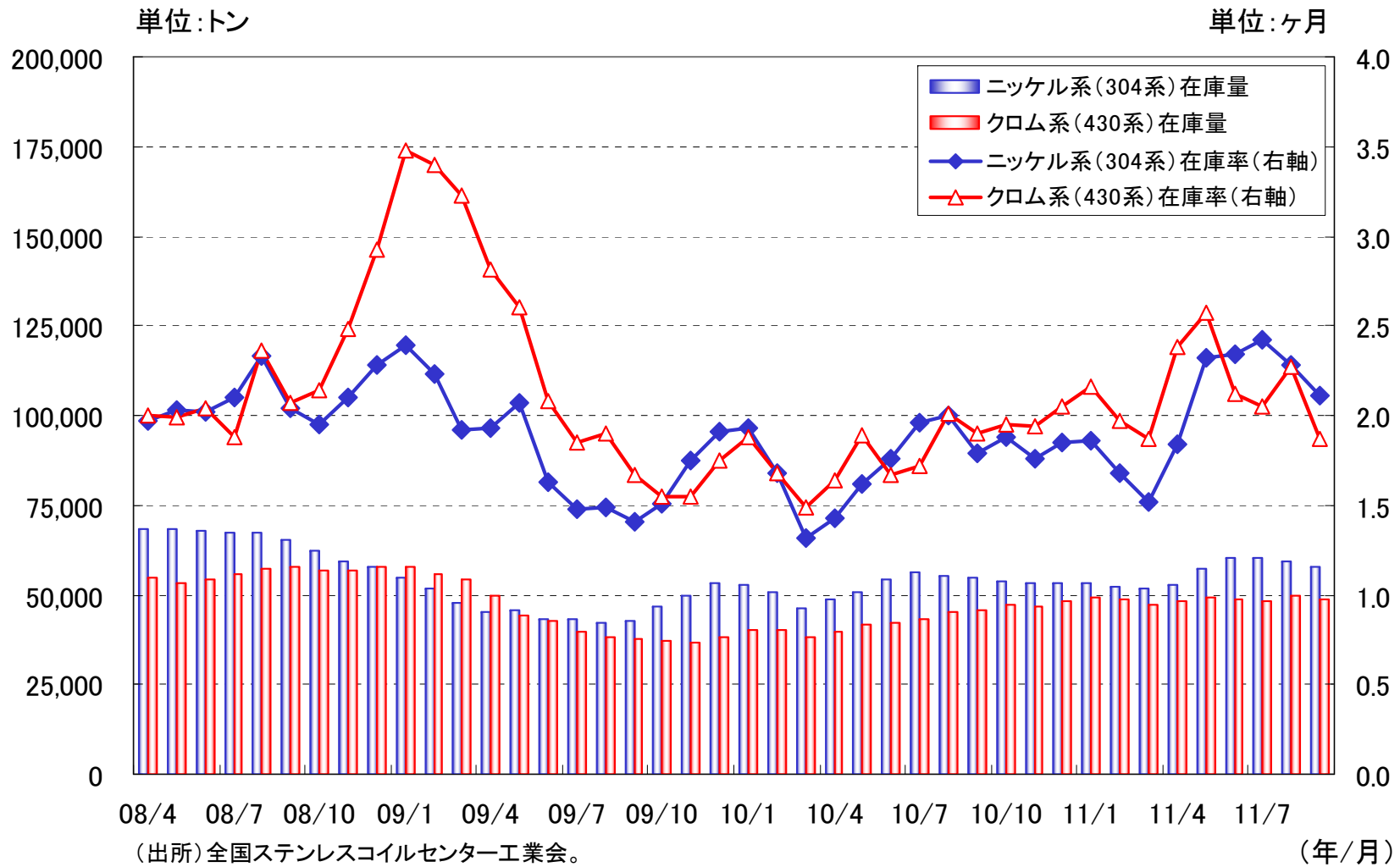
ニッケル・ステンレス価格の推移(月次)

▶ニッケル価格は2011年2月をピークに下落傾向 足元は\$8/lb前後で推移



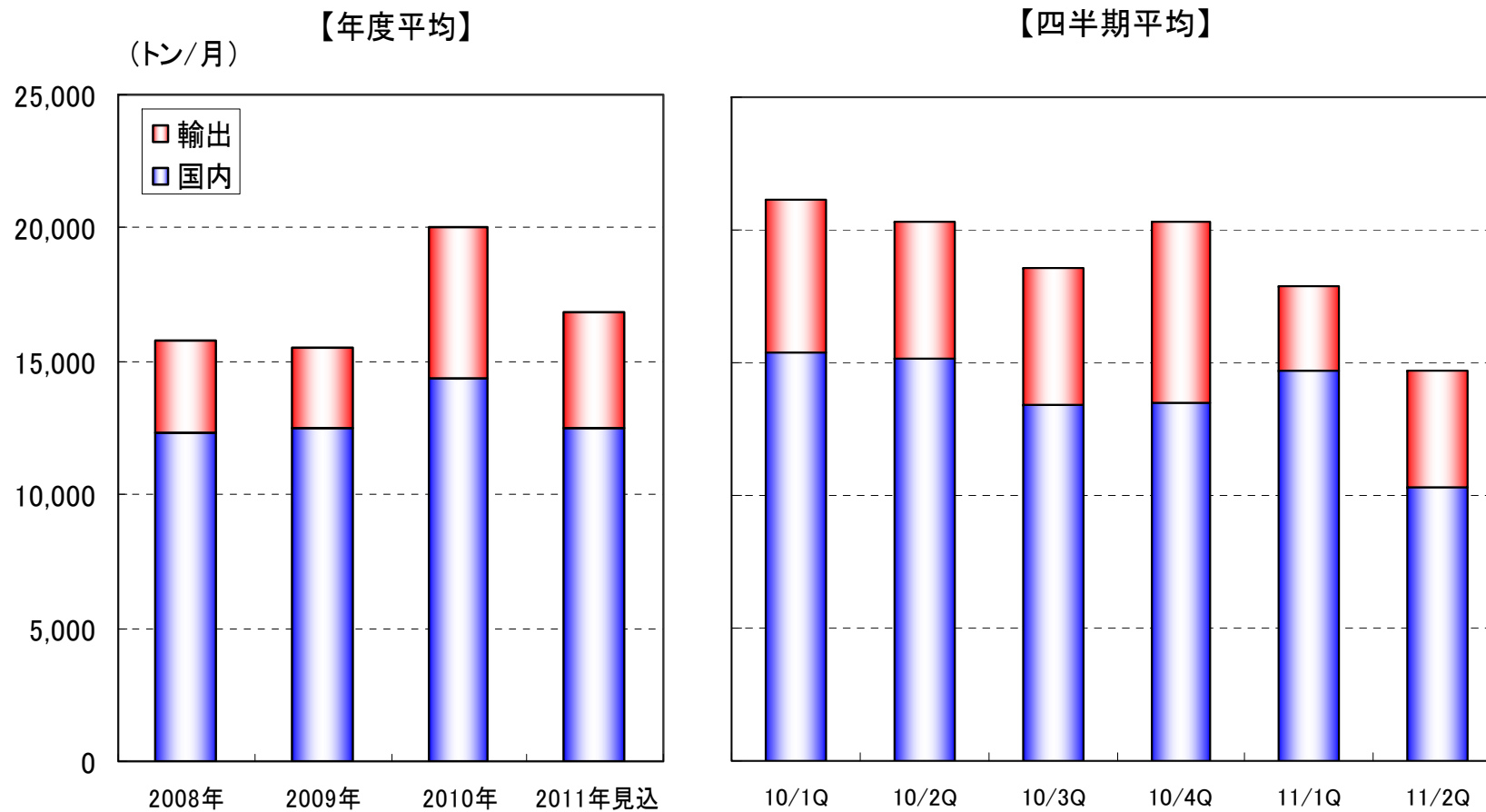
(注1) 冷延ステンレス鋼板:東京SUS304種18-8、2.0ミリ。
 (注2) 2011年11月の冷延ステンレス鋼板価格は直近。
 (出所) 鉄鋼新聞。

汎用ステンレス(ニッケル系・クロム系)在庫の推移(月次)



販売量実績及び見込み《ステンレス一般材》

➤ 今期見込みどおり輸出向け抑制するもNi価格下落及び円高影響から国内向けも低迷

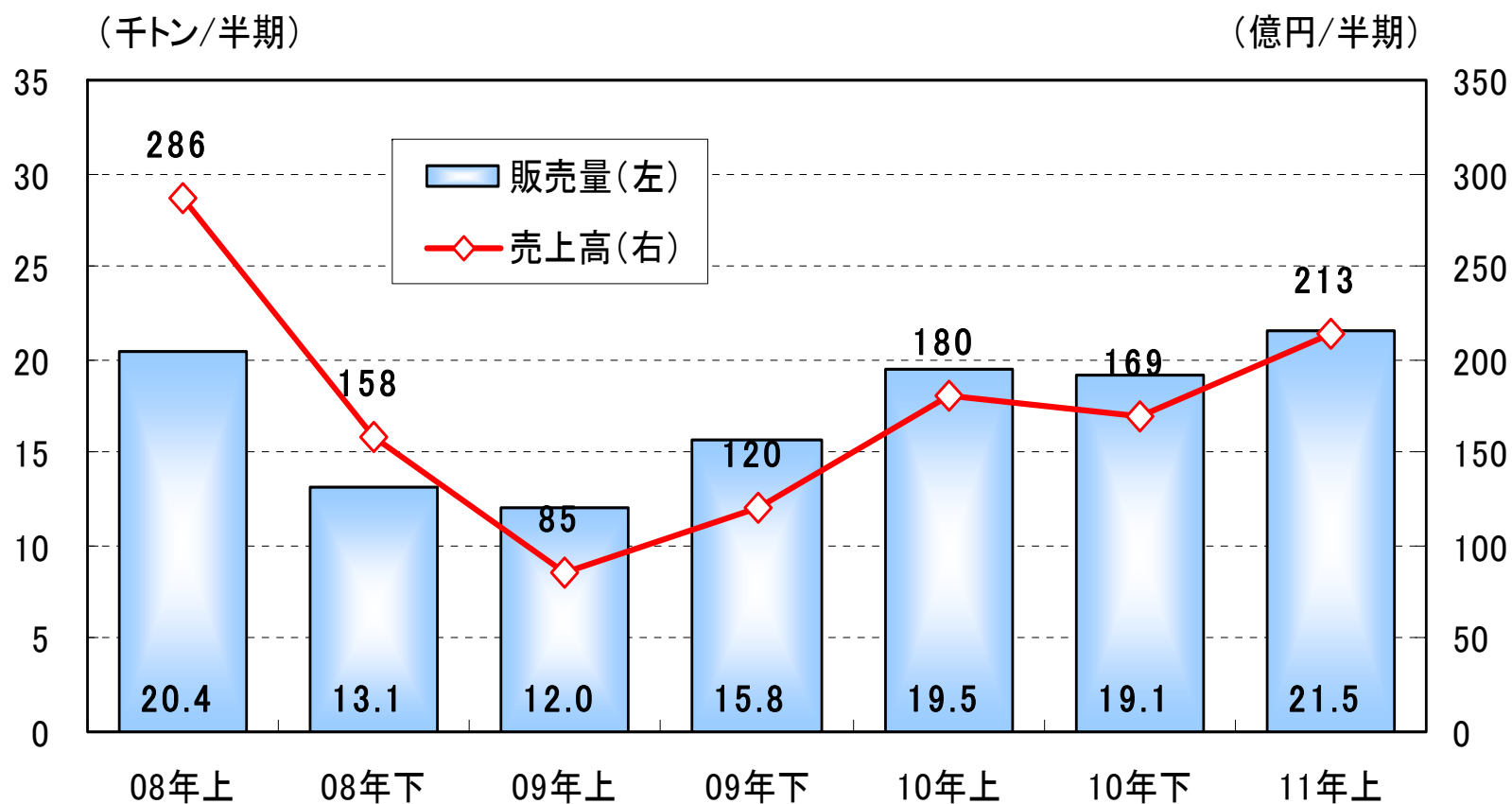


高機能材部門の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
今年度上期	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外のエネルギー需要に関連する間接輸出案件などの受注により高水準の販売を達成 ✓ 震災復興関連需要における高機能材の需要はごく一部に限定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中国は金融引締めの影響から新規投資案件の減少・延期が散見、冷延材は底堅い需要で推移 ✓ 韓国はウォン安の追い風に乗り活発な引合い有り ✓ 欧州は4~6月期は活発だったが、夏季休暇以降はギリシャ等の金融不安から様子見続く ✓ 米国は比較的堅調に推移、米国現法設立により情報精度が向上
今年度下期見通し	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 歴史的円高により間接輸出に係わる需要は低迷するものと予測 ✓ 一方、震災復興関連需要、国内外のエネルギー・環境・航空機関連の需要が徐々に回復するものと予測 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中国は旧正月に向けて購買意欲減退、来年2月以降は延期案件の復活を予測 ✓ 韓国は現状維持と見込む ✓ 欧州は先行き不透明感あるが、英独の底堅い需要は継続すると見込む ✓ 米国は本年上期からの堅調継続と予想されるが、成約率向上で販売数量増加を目指す

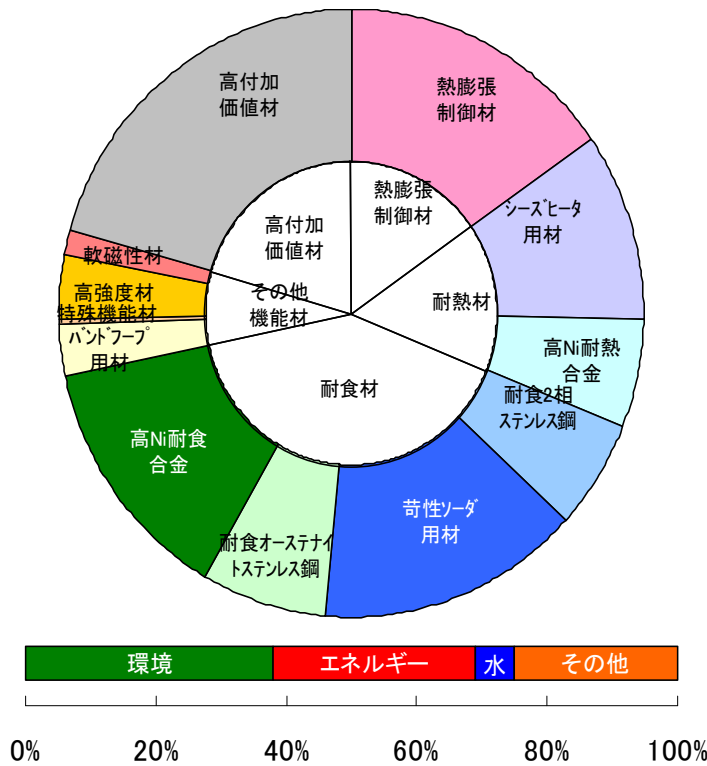
販売量及び売上高 《高機能材部門合計》

➤ 販売量、売上高とも着実に増加

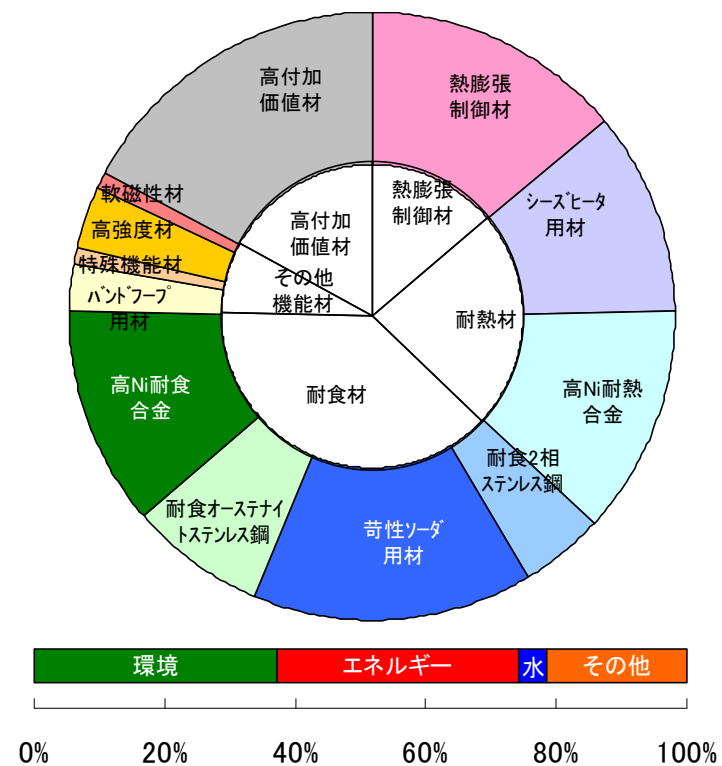


高機能材部門の分類・用途別分類の構成比(売上高)

＜2011年3月期上期＞



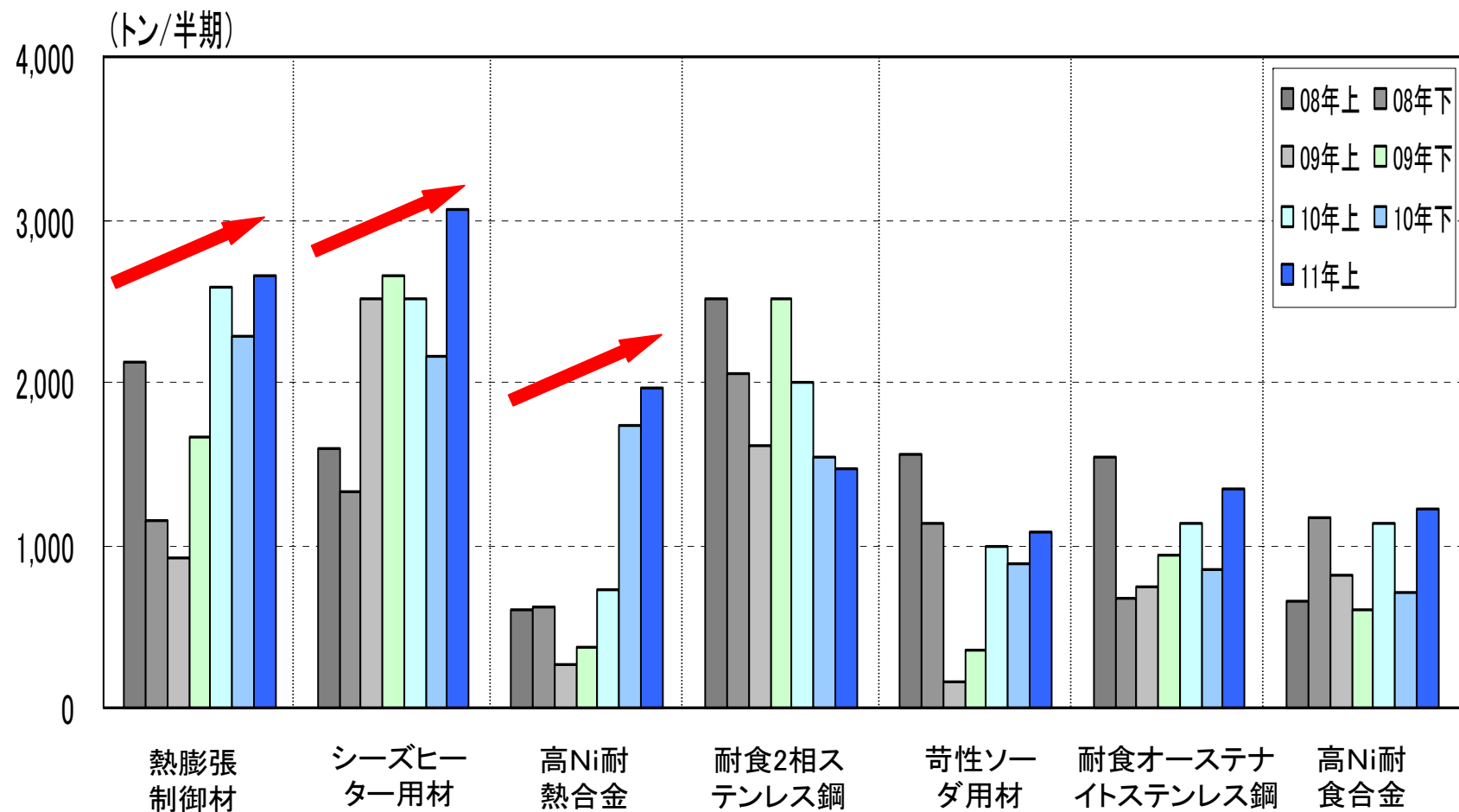
＜2012年3月期上期＞



(注) 下部の帯グラフは高機能材部門全体における需要分野別の割合を示す。

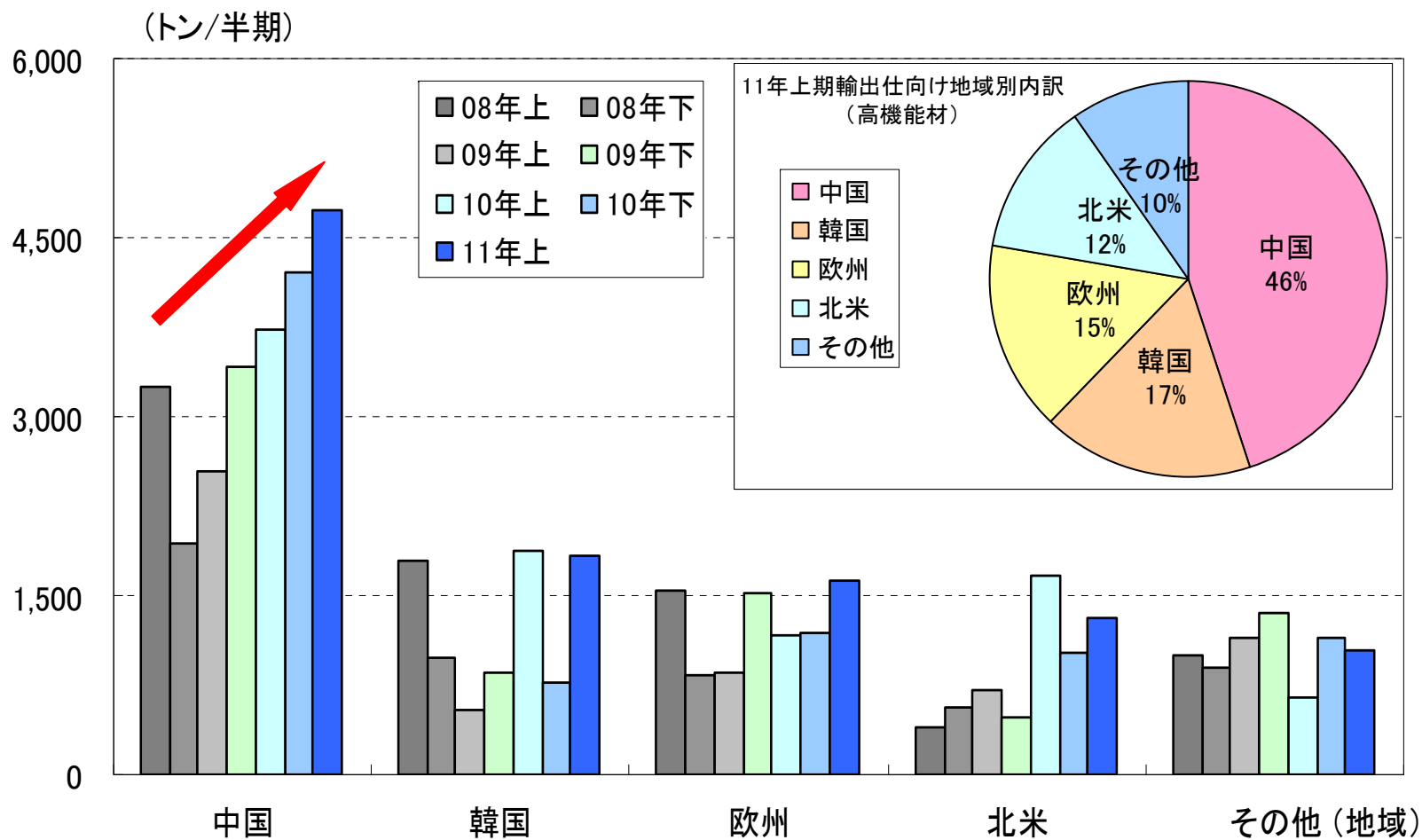
高機能材販売量の分類・用途別分類の推移

▶ エネルギー分野で使用される高Ni耐熱合金が増加傾向



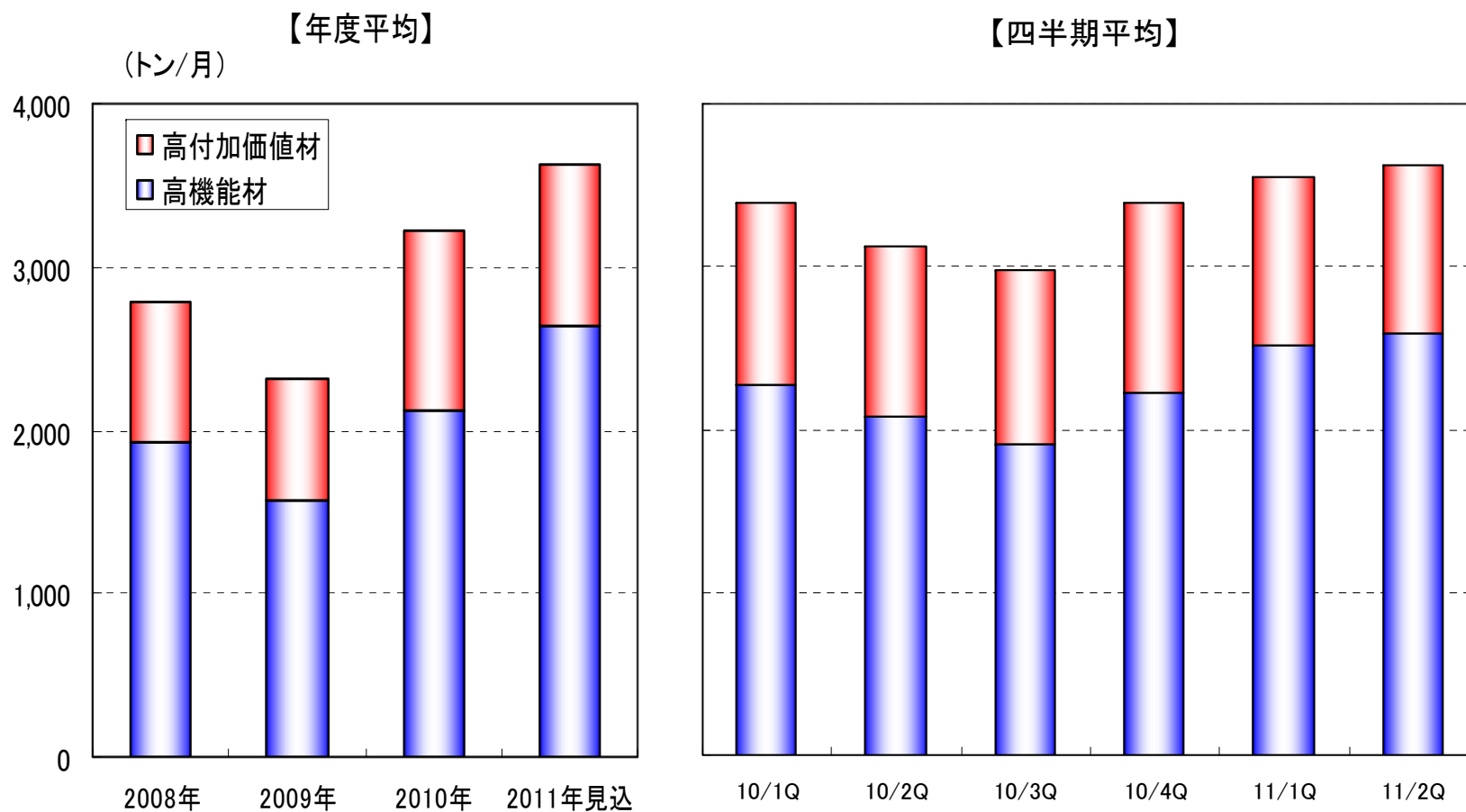
高機能材販売量の輸出仕向け地別推移

➤ 中国向けが全体の半数近くを占め、且つ増加傾向



販売量実績及び見込み《高機能材部門合計》

▶ エネルギー分野の需要を背景に下期も上期並みの販売量を見込む



見えないところで活躍する日本冶金の高機能材



高ニッケル耐熱合金
NAS H840, 800L, 800H, 800T
600, 601, 660, HX, 750

高ニッケル耐食合金
NAS 825, 625, 600, 600M
NW22, NW276, NW400, Ni201

耐食オーステナイトステンレス鋼
NAS 255, 185N, 254N, 254NM, 255NM, 335X,
325N, 354N

耐食2相ステンレス鋼
NAS 64, 329J3L, 74N, 75N

熱膨張制御材料
NAS 36, 42, 22-3, 206MN, 47-6

高強度材
NAS 630, 631, NM15M, NM17

軟磁性材(パーマロイ)
NAS PD, PB, PC

高機能材紹介 多結晶シリコン製造用反応容器

製品名 : 高ニッケル耐熱合金(鋼種名NAS800H)

受注先 : 多結晶シリコンメーカー

用途 : 多結晶シリコン製造用反応容器向け

- ・太陽光発電は、太陽電池パネルの表面で半導体を利用して光のエネルギーを直接的に電力に変えるもので、半導体として高純度の多結晶シリコンが必要。
- ・シリコン原料の高純度化の代表的な方法であるシーメンス法には、高温(約500℃)、高圧力の条件で、金属シリコンと水素、塩素を反応させる工程が含まれる。
- ・このような厳しい環境で使用される反応容器の材料として使用されているのが、“優れた耐熱性を有する日本冶金工業のNAS800H”。



NAS800H製多結晶シリコン製造用反応容器

南京德邦金属裝備工程有限公司 殿
ご提供

高ニッケル耐熱合金

NAS800H 板厚3.0~60.0mm

連結子会社2社の共同会社分割(新設分割)について

- 新設分割の効力発生日：平成23年10月3日
- ナスクリエイト(株)およびナスエンジニアリング(株)の当社川崎製造所内における両者の受託事業をそれぞれ分割し、新設会社ナステック(株)に承継
- 会社分割の目的：川崎製造所内での受託事業をそれぞれ分割し統合することで、一体的運営を図り、グループとしてより効率的な企業体質の構築
- 2012年3月期の当社連結業績及び単独業績への影響は軽微

商号	ナスクリエイト(株) (分割会社)	ナスエンジニアリング(株) (分割会社)	ナステック(株) (新設会社)
所在地	東京都中央区	東京都中央区	神奈川県川崎市川崎区
主な事業内容	ステンレス製品梱包用資材の販売、梱包作業、及び損害保険代理業	ステンレス鋼精整加工及び設備設置工事	特殊鋼、ステンレス鋼の製造加工に係わる作業受託業務
主な株主構成	日本冶金工業株式会社 100%	日本冶金工業株式会社 100%	日本冶金工業株式会社 100%

配当について

➤ 2012年3月期第2四半期の配当

2012年3月期第2四半期末の配当は誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。

➤ 2012年3月期の配当予想額

経営環境は依然厳しく先行きへの不透明感があることから現時点では未定としております。今後の業績を見極め、開示可能になった時点で速やかにお知らせ致します。

本日のアジェンダ

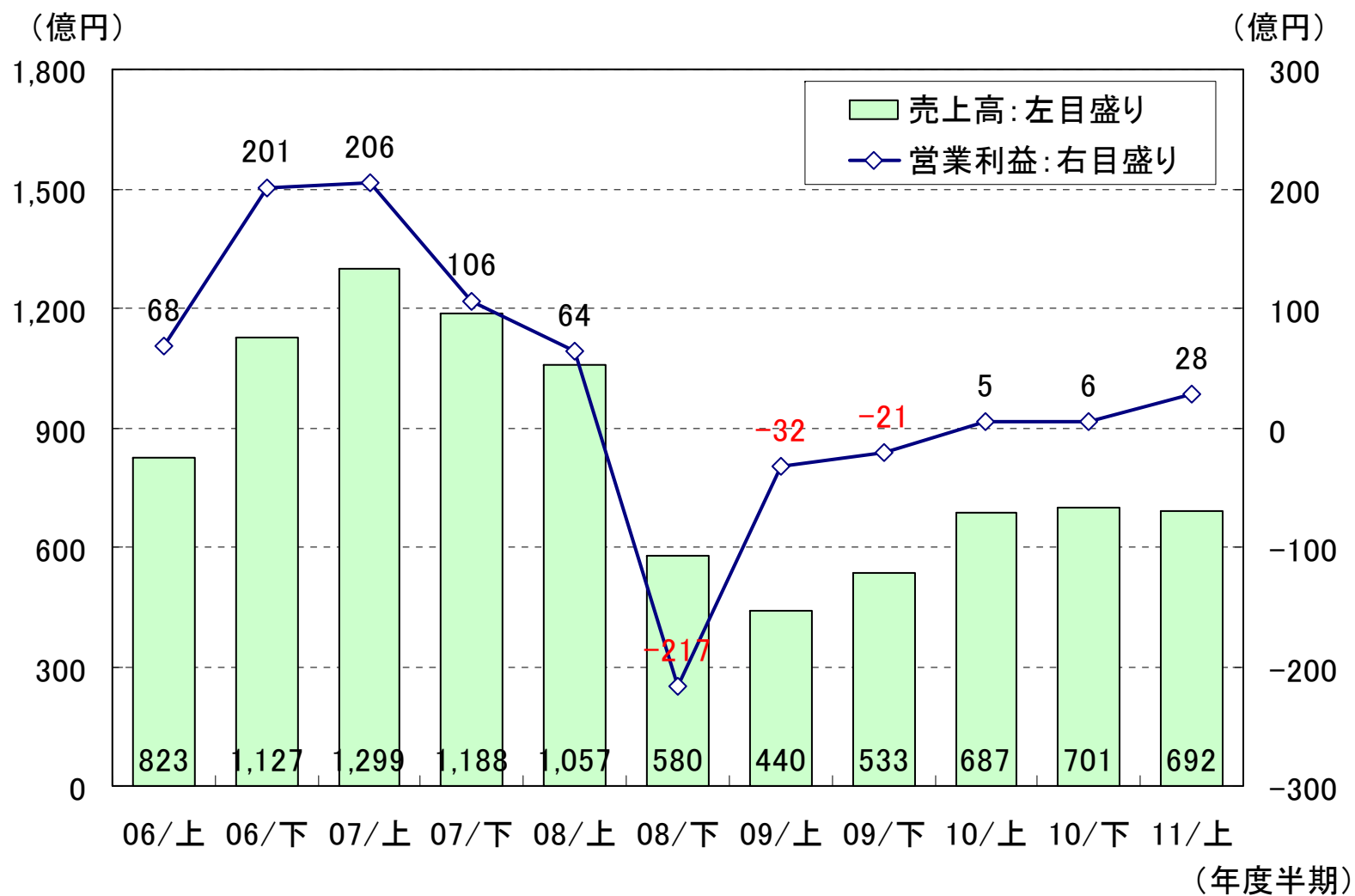
1. 2012年3月期第2四半期決算サマリー
常務取締役経理部長 久保田 尚志

2. 足元の状況と高機能材への取組み

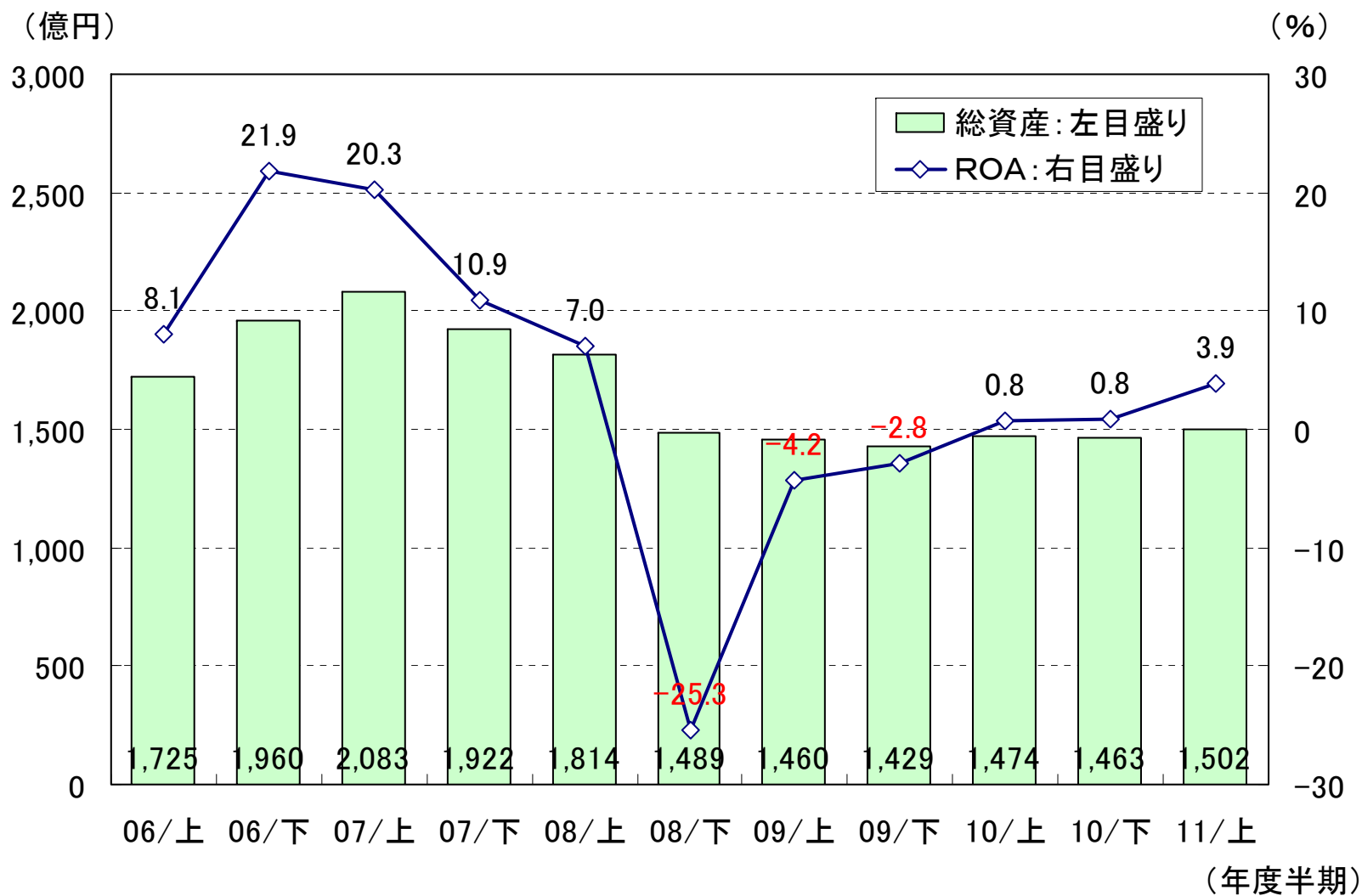
代表取締役社長 杉森 一太

＜参考＞主要データ(連結ベース)

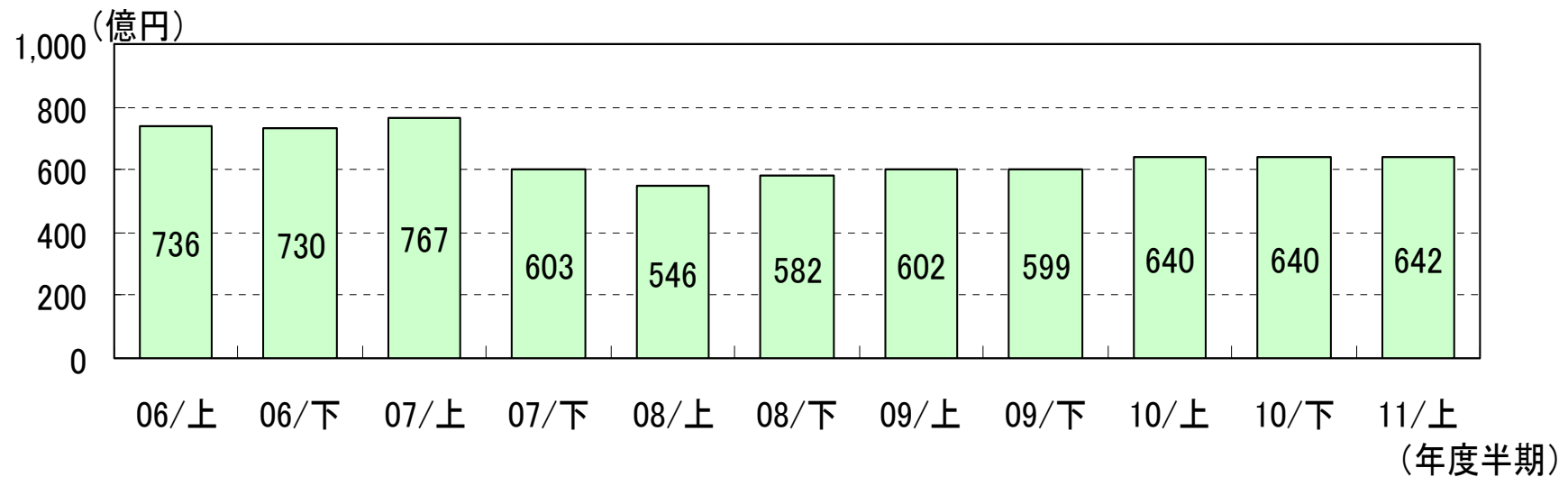
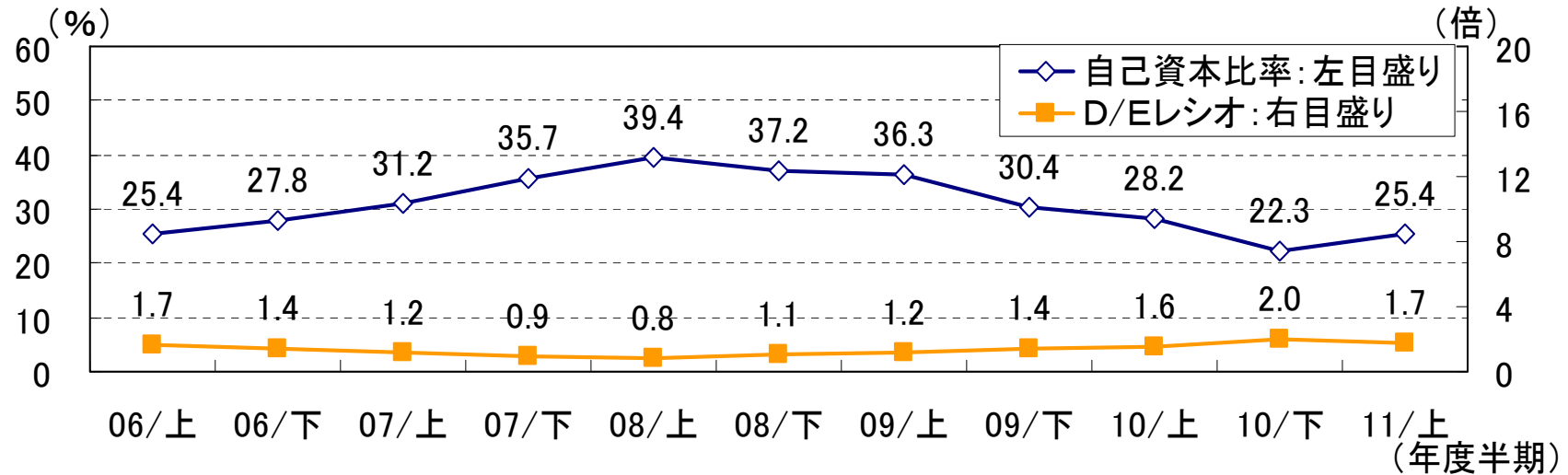
売上高・営業利益



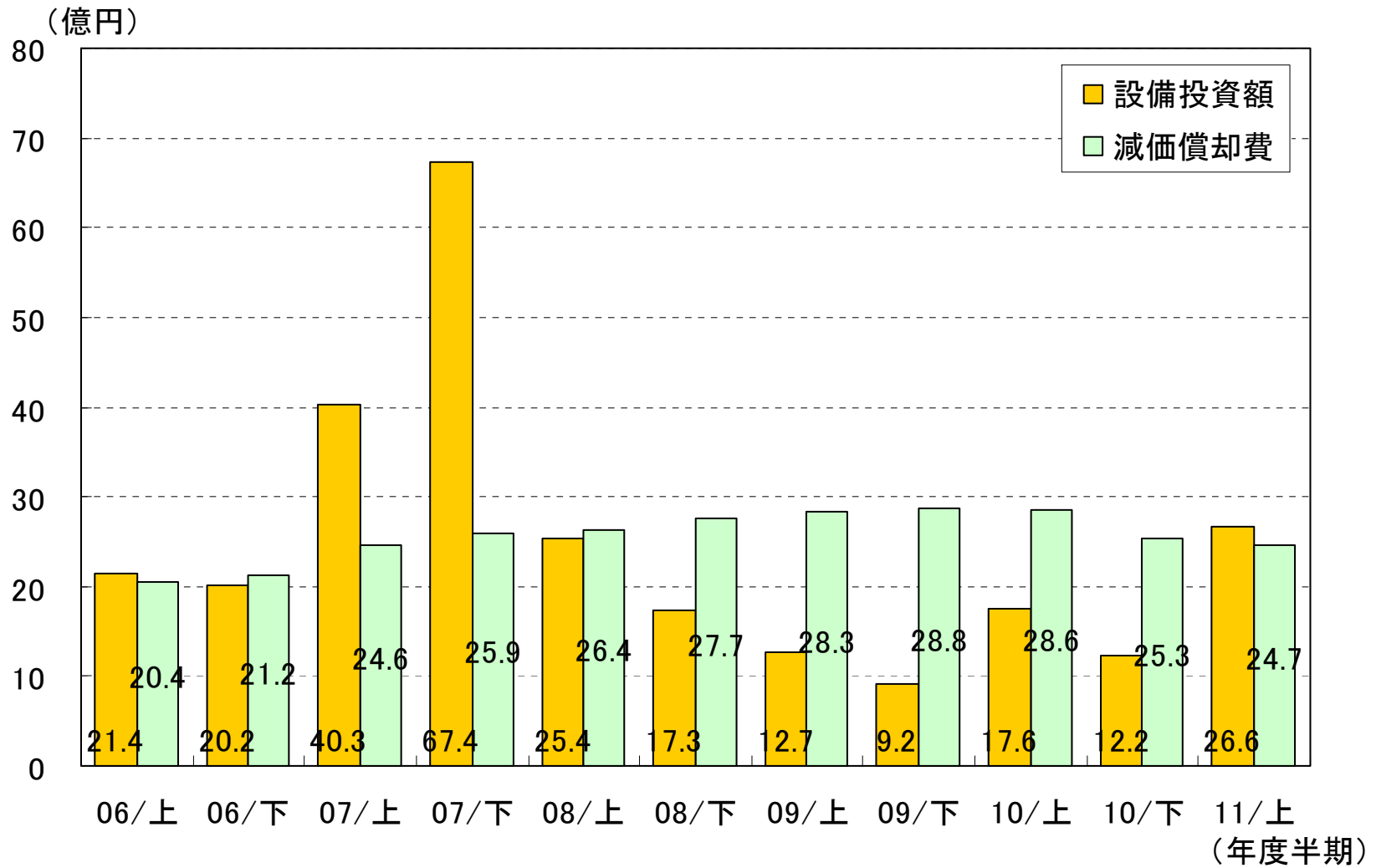
総資産額・ROA



有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ



設備投資(連結ベース)



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp